

# SMILE

ハービー・山口 You are a peace of art.

vol.73

使命感をもって生きる人々には誇りという輝きがある……。  
涙を止めようもなかったというハービー・山口さんが  
最新の撮影エピソードを明かします。

僕は日本製薬工業協会で、いくつかの医療に関係した法人の協力のもと、被写体となる方々を集めていただいた。その方々はスタジオに来るや、ヘアメイクさんに髪や服装を整えてもらい、カメラと対峙するわけだが、そのような経験は初めてとあって緊張されているのがわかった。

普段、医師の方々は緊張の極みに向かい合っているし、患者さんは自分のことで1日1日を過ごすので精一杯であるから、そうした方々にどんな言葉を掛けたらいいのか、私も手探りの状況である。

まず、ヘアメイク用の大きな鏡を使って撮影を始めた。鏡の中に映っている顔を撮影するのだ。カメラを直接向けるのではなく、反射像を撮るという間接的な方法なので気が楽だ。

メイク用の鏡は周囲に光源が付いている、ポトレートには打って付けといえる。数枚撮影し「こんなに素敵に撮れていますよ」とカメラのモニター画面を見せると、照れながらもニコツと笑ってくれた。

そのあとは窓辺の光を使ったり、椅子に腰掛けてもらったりした。また、スタジオを出て、目黒川沿いの桜並木や裏道でも撮影した。

ある大柄の男性だった。「喉の痛が治ったと思ったら、首の横に転移しちゃってさ……」西日が当たり始めるころだった。ビルの白い壁に、その方の影がきれいに落ちていた。若いころは何かの運動をしていたそう、拳を握って力強いポーズをお願いした。

実像と影が重なり合った面白い構図ができた。モニターを見せると、満足な表情を浮かべている。

「結局、人生って、生きた長さではなく、何をしたかってことですかね!?」ファインダーを覗きながら、彼に言った。

「うん、そういうことなんだね」やがて撮影が終了したことを告げると「なんか元気がなったよ、ありがとうね」と言って、彼は駅のほうに歩いて行った。

次に、素敵なママが家族4人で来てくれた。ご主人は長身でかっこよかったです。

4人のつないだ手のアップを撮影した。いつまでこのご家族の絆が続くのだろうかと想像すると、いたたまれない。今ここに存在する4人の満面の笑みを撮らなければと思った。幸い、2人の女の子は無邪気な表情を浮かべ、明るいファミリーショットが撮れた。

続いて、また素敵な女性がスタジオに現れた。東大の大学院を出られた勅使川原真衣さんという方だ。

彼女は昨年、「能力」の生きづらさをほぐす」を出版している。この方には2人の小さなお子さんがいるのだが、2人が大人になって上司から「お前は仕事ができない奴だな」と言われた場合、どう対処したら良いかのアドバイスが書かれている。子どもたちが社会人になるころには、自分はこの世にはいないかもしれないから、天国のママと現世の子どもがホットラインでつないで会話しているという想定だ。勅使川原さんは組織開発の専門家な

ので、本書では社会の仕組みを説明し、自分を最大限に生かす方策を説いている。自分の個性を発揮することが難しいと悩んでいる方には必読の書だ。今年にはさらに4冊の出版が決まっているそうだ。

頭にスカーフを巻き、窓辺の椅子に座ってもらうと、窓からの光が彼女の顔の半分を照らし、まるでフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」のようだった。

撮影が終了し、お礼を言いながら思わず彼女をハグした。残された時間の中で、感情に溺れることなく、自分ができることを精一杯にしているのだなと思うと、私は溢れる涙を止めようもなかった。

「なんで泣くの?」彼女は私に尋ねた。「一生懸命に生きているって美しい!」その一言を返すのがやっとだった。

医師にしても、患者さんにしても、使命をもって生きている人々の内面には誇りという輝きがある。そのような20名近くの方々の人柄を感じながら、時に笑みを浮かべた表情を撮ることができた。

「ジョエルさんのシルエット 東京 2023」



「ジョエルさんの歌は  
私たちの心を一つにした。  
写真も歌も、心に届くか否かだ。」

Herbie Yamaguchi



3月10日までスーパーラポストア東京で写真展「Tokyo color\_X」を開催中です。ぜひお立ち寄りください。同タイトルの写真集も1000部限定で販売しています。